

# 学校設定教科「社会生活」の指導の充実を目指して

－卒業後の生活を踏まえた教育課程上の位置づけと指導内容の分類・整理を中心として－

特別支援教育班 奈良 裕子(特別支援学校教諭)

## 学校生活 (現在の姿)

- 社会生活に必要な知識を身に付ける
- 知識を生活に活かす力を身に付ける
- 自分の将来の姿をイメージする
- 必要な支援を求める力を身に付ける

## 本校の「育てたい生徒像」(抜粋)

- 自立に必要な知識・技能・態度及び習慣を身に付けた生徒
  - ・家庭生活／社会生活／職業生活に必要な知識・技能・態度及び習慣
- 状況変化にも対応できる学力・体力・気力がある生徒
  - ・社会人として必要なルールやマナー(規律ある行動・礼儀・あいさつや返事)
  - ・状況変化に適応でき、たくましく生きぬく力(自分で気付き、考え、行動する力)(自分自身を見つめる力、自己選択する力)

## 卒業後の生活 (目指す姿)

## 自立的で豊かな 社会生活

- 自分らしく働く
- 充実感を感じる
- 豊かな暮らし
- 余暇を楽しむ
- 制度やサービスの利用
- 安全な生活
- 生活に必要な情報の入手

## 学校設定教科「社会生活」

生徒の課題、必要性等に応じて社会生活に必要な基礎的・基本的な知識についての理解を深め、自立的で豊かな生活を営むための能力と態度を育てる。

卒業までの限られた時間の中で何を優先して教えていったらいいか

既存の教科では十分に身に付けられていない内容は？



より効果的な指導は？

## 指導内容及び関連表の作成

	学習領域	指導内容	「ひとりだち」	他教科との関連	進路ノートの関連項目
家庭生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別の教育支援計画と共通した大領域の設定</li> <li>● 校内資料「領域教科で学習する学習領域」を基に</li> <li>● 使用教科書「ひとりだち」との関連</li> <li>● 他教科や進路学習との関連</li> </ul>			
余暇・地域生活					
進路先の生活					
医療・健康・対人関係					

## 「社会生活」で身に付けたい能力・姿勢

- ◆ 知らないこと、分からないこと存在に気付く。
- ◆ 調べたり考えたりする必要性を感じる。
- ◆ 分からないことを調べる方法や相談できる人や機関を知る。
- ◆ 分からないことは信頼できる人に相談する。
- ◆ できないことは適切な相手に頼む。

## 指導内容及び関連表の修正

## 題材設定の工夫

**必要性・重要性・緊急性  
具体的・实际的・系統的**

## 具体的な生活場面を想定

## 授業実践

「携帯電話の使い方」

(社会における危険やルール・マナーの理解／情報機器の活用)

「お弁当を作ろう」(金銭の使用／日常生活の技能)

「病気になったらどうするの？」(健康の理解／社会の仕組みの理解)

**成果** : 「指導内容及び関連表」があることで指導内容の精選が容易になった。

**課題** : 実践を積み重ね、指導内容の具体化と系統の整理を継続すること